

全般季節予報支援資料 3か月予報 2018年5月25日

予報期間：2018年6月～2018年8月 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 出現の可能性が最も大きい天候

6月 北日本では、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

7月 北日本と東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

8月 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

(2) 確率予報

気温	3か月(%)	6月	7月	8月
	低 並 高	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:30:50	20:40:40	20:40:40	20:40:40
東日本	20:30:50	30:30:40	20:30:50	20:40:40
西日本	20:30:50	30:30:40	20:30:50	20:40:40
沖縄・奄美	20:30:50	20:30:50	20:30:50	20:40:40

降水量	3か月(%)	6月	7月	8月
	少 並 多	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本日本海側	30:30:40	30:40:30	30:30:40	30:40:30
北日本太平洋側	30:30:40	30:40:30	30:30:40	30:40:30
東日本日本海側	30:30:40	20:40:40	30:40:30	30:40:30
東日本太平洋側	30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30
西日本日本海側	30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30
西日本太平洋側	30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30
沖縄・奄美	40:40:20	40:40:20	40:40:20	30:40:30

予報資料の解釈

● 3 か月平均

- 熱帯の海面水温（SST）は、今予報期間のエルニーニョ監視海域については平常の状態である可能性が高い（70％）。西太平洋熱帯域については夏から秋にかけて基準値より低い値が基準値に近い値で推移するが、平年値に比べると海面水温の高い状態が続く見込み。
- 熱帯の対流活動（降水量と 200hPa 速度ポテンシャル）は、太平洋の 10°N～20°N 帯ではフィリピン以東の広い範囲で帯状に活発。インド洋に関しては、アラビア海や赤道付近では不活発な一方、ベンガル湾では活発。また、中～東部太平洋熱帯域の赤道付近～南半球側は不活発で、熱帯域での降水は北半球の亜熱帯側に偏る。
- 200hPa 流線関数は、北半球の中・高緯度帯は広く正偏差。西半球では波列パターンが見られるが、日本付近を含む東半球はほぼ一様に正偏差で、チベット高気圧は強く、ユーラシア大陸～日本の東では偏西風が北偏する。
- 下層（850hPa 流線関数と海面気圧）では、10°N～30°N の 120°E～160°W では強い低気圧性偏差。一方、その北側に位置する北～西日本は（相対的に）高気圧性偏差で、この方面への太平洋高気圧の張り出しは強い。また、沖縄・奄美は期間の前半を中心に、すぐ南の「フィリピンの東」での対流活発の影響を受けて対流活動が抑えられる見込み。なお、オホーツク海高気圧は熱帯との関係が弱くモデルの予測精度が低いと、平年程度の出現を見込む。
- 850hPa 気温は、北半球の中・高緯度帯ではほぼ全域が正偏差で、日本付近も広く暖かい空気に覆われる。
- 北半球層厚換算温度は引き続き平年より高く、+0.7℃程度。地球温暖化に加え、熱帯域での降水が北半球の亜熱帯側に偏っていることも寄与していると考えられる。
- 以上から、気温は全国的に高い。降水量は、北・東・西日本ではほぼ平年並だが北日本は期間の中頃を中心に湿った気流の影響をやや受けやすく若干の多雨傾向（7月の欄にも記述）、沖縄・奄美は湿った気流の影響を受けにくく少雨傾向。

● 6 月

- 熱帯の SST 分布と対流活動の特徴は 3 か月平均とほぼ同様の傾向だが、「ベンガル湾」「太平洋の 10°N～20°N 帯でのフィリピン以東の広い範囲」での対流活発の程度は 3 か月平均より強い。
- 200hPa 流線関数は、3 か月平均とほぼ同様で日本付近は明瞭な正偏差。日本付近では偏西風が北偏する。
- 下層（850hPa 流線関数と海面気圧）では、3 か月平均と同様に、沖縄・奄美はすぐ南の「フィリピンの東」での対流活発の影響を受けて対流活動が抑えられる。日本の南は（相対的な）高気圧性偏差となり、東・西日本には太平洋側を中心に南よりの湿った空気が流れ込みやすい。
- 850hPa 気温は、全国的に明瞭な正偏差だが、東・西日本は低気圧や前線の影響を受けやすく高温が抑えられる可能性も考慮する。
- 以上と最新の 1 か月予報を総合的に勘案し、気温は、沖縄・奄美が高温で北日本は高温傾向、東・西日本はほぼ平年並。降水量は、沖縄・奄美は前線や湿った気流の影響を受けにくく少雨傾向、東・西日本は低気圧や前線の影響を受けやすく多雨傾向、北日本はほぼ平年並を見込む。

▶ 想定される天候

- 北日本では、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 東・西日本では、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- 沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

●7月

- ・ 熱帯の SST 分布と対流活動の特徴は3か月平均とほぼ同様の傾向だが、ベンガル湾では対流不活発。
- ・ 200hPa 流線関数は、3か月平均とほぼ同様に日本付近は明瞭な正偏差で、引き続き偏西風は北偏する。
- ・ 下層（850hPa 流線関数と海面気圧）では、フィリピン以東の広い範囲での対流活発の応答として、沖縄の南～日本の南の 20°N 付近が低気圧性偏差（3か月平均より明瞭）。その北側のおよそ 30°N 以北では PJ パターンの的に気圧が高く、本州付近を中心に日本付近への太平洋高気圧の張り出しが強い。これに伴って、北日本は太平洋高気圧の縁を周る湿った気流の影響をやや受けやすい可能性がある。
- ・ 沖縄・奄美では、3か月平均とほぼ同様に、すぐ南の「フィリピンの東」での対流活発の影響を受けて対流活動が抑えられる。
- ・ 850hPa 気温は全国的に明瞭な正偏差で、北ほど正偏差が強い。ただし、北～東日本付近における予測精度は低いため、北ほど正偏差が強い傾向については割り引いて考える。
- ・ 以上から、気温は東日本以西で高く、北日本でも平年並か高い。降水量は、東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすく少雨傾向。北日本と東日本日本海側はほぼ平年並だが、北日本は若干の多雨傾向（低気圧や前線の影響を若干受けやすい）を見込む。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年に比べ晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い。

●8月

- ・ 熱帯の SST 分布と対流活動の特徴は3か月平均とはやや異なり、「ベンガル湾」「フィリピンの東」で対流活動が不活発になる。このうち「フィリピンの東」の対流活動については、5月を初期値とした8月の予測精度は低いため、平年に近づけて考える。
- ・ 200hPa 流線関数は、アラビア海～ベンガル湾～南シナ海～フィリピンの東での対流不活発に対応してユーラシア大陸では正偏差が弱く、日本付近～日本のはるか東での明瞭な正偏差と比較すると、相対的な低気圧性循環偏差。リードタイムの長い3か月先の予測であることを考慮すると、両者の境界位置等については不確実性が大きい。
- ・ 下層（850hPa 流線関数と海面気圧）では、日本付近は「北日本の一部」を除いて低気圧性偏差で、太平洋高気圧の張り出しは強くない。ただし、予測精度の低い「フィリピンの東」での対流活動が今回のモデル予測より活発になった場合などは「北日本の一部」だけでなく北～西日本の広い範囲が高気圧性偏差となって太平洋高気圧の張り出しが強くなる可能性もあり、不確実性が大きい。
- ・ 850hPa 気温は、3か月平均と同様にほぼ全球的に正偏差で、日本付近も北日本を中心に正偏差。一方、500hPa 高度は、沖縄・奄美～日本の南が負偏差。
- ・ 以上から、気温は全国的に高温傾向で、降水量は全国的にほぼ平年並を見込む。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わる。
- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

5月（20日まで）の天候経過

日本付近は低気圧と高気圧が交互に通過して全国的に概ね数日の周期で天気に変化したが、低気圧は北日本付近を通過することが多く、北日本と東日本日本海側は曇りや雨の日が多かった。なお、奄美地方は7日頃、沖縄地方は8日頃に梅雨入りしたと見られるが、梅雨前線や湿った気流の影響を受けることは少なく、

曇りや雨の日は少なかった。2日～4日は発達しながら通過した低気圧の影響で、北～西日本では荒れた天気や大雨になった所があった。また、6日～9日と13日および18日は、低気圧や前線により北～西日本の各地で大雨となった。

気温は、全国的に平年を上回ったが変動も大きく、4日～5日や8日～11日は5月としては強い寒気が日本へ流れ込んだため、広い範囲で低温となった。降水量は、北・東・西日本では平年を上回り、沖縄・奄美は平年を下回った。日照時間は、北日本と東・西日本日本海側では平年を下回り、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美は平年を上回った。

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。